

絲綢之路

シルクロード

S I L K R O A D

2016-新春

No.80

●表紙の画および題字は、
故・平山郁夫画伯のご厚意により
ご提供いただいているものです。



パルミラ遺跡の朝 1976年



【葡萄唐草模様について】

古代、ペルシャ、コーカサス生まれの葡萄が蔓草と一つになり、西へ、東へ、シルクロードを経て東西の文化を彩る文様となりました。私どもの財団ではシルクロードを中心に、世界の文化に寄与できればと、この葡萄唐草文様をシンボルマークにいたしました。

●シンボルマークデザイン：吉田左源二

公益財団法人

文化財保護・芸術研究助成財団

FOUNDATION FOR CULTURAL HERITAGE AND ART RESEARCH

メサ・ヴェルデ国立公園

(アメリカ合衆国)



ユネスコ世界遺産 (文化遺産) シリーズ

©UNESCO

メサ・ヴェルデ国立公園は、コロラド州の南西部にある。地名はスペイン語で緑の台地という意味で、ここにはアメリカ先住民であるアサジ族が残した断崖を削り貫いて造られた集落遺跡がある。

中でもクリフ・パレスとよばれる「断崖宮殿」は公園内最大級の遺跡で、部屋数は二〇〇室ほどある。六世紀から十三世紀にかけて造られたと推測されている。不可思議にも、この宮殿は十三世紀末になって放棄されてしまった。様々な説が唱えられているが、その理由は不明である。(一九七八年に文化遺産として登録)

公益社団法人
日本ユネスコ協会連盟

年頭の御挨拶

生命の尊さを考える

新年明けましておめでとうございます。

情報化社会における今日、内外を問わず様々な知らせが私たちの元に届きます。昨年、私が最も「ときめき」を覚えたものは、アメリカが二〇〇六年に打ち上げた宇宙探査機「ニューホライズンズ」からのものでした。

私にとっては、太陽系第九惑星の冥王星と言ったほうがしっくりするのですが、遙か遠方のこの星は、今は準惑星とされています。その冥王星の詳細な姿をニューホライズンズは送ってきたのです。大方の専門家の予想に反し、冥王星は実に変化に富んだ地形と色彩を有しておりました。残雪、氷を噴出する火山の存在も示唆したのです。

ニューホライズンズの十年に及ぶかという宇宙の旅といい、電波が地球に届くまで四時間以上もかかる超遠方の映像を見るにつけ、改めて科学技術の進歩に感嘆の声を上げ、宇宙の神秘の奥深さを認識した次第です。

さて、地上に目をむけましょう。残念かつ悲しいことに毎日、理不尽にもどこかで人が人の手によって尊い生命を失っております。特にテロ行為によるものは、悲しさとも怒りをいかなる言葉で表現すればいいのか、私は持ちあわせておりません。有名なユネスコ憲章は冒頭で「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」と記しています。憎しみが憎しみを生む連鎖は、どこかで断ち切らなければいけません。

特効薬のような即効性はありません。しかし、平和のとりでを築く構築資材こそ文化であり、芸術の力であると私は信じます。その意味でも微力ではありますが、本年も私どもは課せられた使命を全うする所存です。

詳しくは本文を御覧いただきたいと思いますが、恒例の日中韓文化交流フォーラムは、昨年十一月に中国の浙江省温州市で開催されました。数えて十一回になります。私は誠に申し訳ないことに公務が重なり、調整がつかず、欠席させていたのだ次第です。

フォーラムは無事に終わりましたが、中国においても、あの「わたしは未来」が歌われたとの報告に接し、涙もろい私は暫く感動にひたりました。作曲者の松下功・東京藝術大学教授・副学長の御尽力で作家の夢枕獏さんの詞の英語版、仏語版も完成したとのことなので、夢あふれるこの歌が世界中の子どもたちに歌われることを願ってやみません。

日中韓文化交流フォーラムの舞台は、本年は日本に移ります。パートナーである国際交流基金の皆さんともよく相談し、良い結果を生み出せるよう努力したいと思えます。

ここで私自身のことに少しふれさせていただきます。皆さま御存知のように、私は二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピックのエンブレム委員会の委員長を仰せつかっております。あのような経緯の中で今度は、日本がどのようなエンブレムを採択するのか、世界が注視しております。誰もが納得し、誰からも愛されるエンブレムをこの

春には発表できるよう神経を研ぎ澄まして取り組んでおります。期待をもってお待ちいただければ幸いです。

本日に時の流れの早さを痛感いたします。東日本大震災から本年は五年目という一つの節目にあたります。私どもが取り組んでまいりました東日本大震災被災文化財の救援と復旧の支援事業も最終年に入ります。あれだけの災害です。全ての面においての復興となると、かなりの時間と忍耐を要することは明白です。しかし、愚公山を移すの故事を持ち出すまでもなく、一つ一つの積み重ねが大切です。私たちがこの心をもって邁進してまいります。御協力よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、懸案であったアフガニスタンからの流出文化財の返還式が四月十二日から東京国立博物館で開催される特別展「黄金のアフガニスタン」守りぬかれたシルクロードの秘宝」を機に執り行われます。亡き平山郁夫先生は、常々、「文化財を守ることは人々の心を守ることだ」とおっしゃっておられました。アフガニスタンのカブル国立博物館には「自らの文化が生き続ける限り、その国は生きながらえる」という意の文言が掲げられています。

私たちは、こうした警句に真摯に耳をかたむけ、さらに生命の尊さに改めてむかいあおうではありませんか。

皆さま、本年も私どもの意をお汲み通りのうえ、よろしく御指導、御鞭撻賜りますようお願い申し上げます。



理事長
宮田 亮平
(みやた・りょうへい)

アフガニスタン流出文化財返還への道

正式返還が決まったアフガニスタンからの流出文化財。この貴重な文化財の保護・保管に心くだかれた平山郁夫画伯の想いに、今、改めてふれよう。

戦乱のアフガニスタンの地で…

日本画の巨匠 故平山郁夫先生の画業とユネスコ親善大使として世界の文化財を守るという尊いお仕事は、シルクロードを中心に展開されてきたと言っ
てよいかと思えます。実際、平山先生はシルクロード沿いの重要な場所に、生涯、150回ほど赴かれたと伺いました。

その中でも、古くから東西文化の交流の地として栄え、文明の十字路口と称されてきたアフガニスタンには、先生の特別な思い入れがあったと思われるます。先生29歳の時のいわば出世作「仏教伝来」は、玄奘三蔵をモデルにしたものであり、先生ご自身、「玄奘の旅を追体験するためシルクロードの旅を続けてきた」と言っておられました。

玄奘三蔵も、アフガニスタンのバミヤンを訪れています。お釈迦さまが説いた教え、仏教が日本に到達するのに、実に1000年もかかったと言われていますが、アフガニスタンのバミヤンは、日本への仏教伝来の重要な中継点であったとも言われています。

さて、アフガニスタンでは、1979年に侵攻した旧ソ連軍が1989年に撤退した後も混乱と内戦が続き、その中でイスラム原理主義への回帰を標榜するタリバン政権が勢力を伸ばし1996年に首都カブールを制圧。オマール師の率いる偏狭な原理

主義のタリバン政権が偶像崇拜を禁じるとの名目の下に、アフガニスタンの文化遺産の破壊を始め、2001年2月26日、オマール師は全ての彫像遺跡を破壊すべきとの布告を出しました。これに対し、ユネスコ、国連、日本の政府や国会議員、そして平山先生たちが、この暴挙を止めるために懸命の説得工作を行いました。平山先生は、ユネスコ親善大使として、大英博物館長（英）、フリーア美術館長（米）、ギメ東洋美術館長（仏）、などの関係者と共に共同声明を発表し、また、日本ユネスコ協会連盟と協力して日本全国で署名活動と募金活動を展開されました。しかし、こうした懸命の努力にも係わらず、2001年3月9日から11日にかけて最大の仏教遺跡があったバミヤンの二つの大仏は完全に破壊されてしまいました。その映像は世界に大きな衝撃を与え、ユネスコは後にこの破壊行為を「文化に対する犯罪」として強く非難することになります。

文化財難民の受け入れへ

こうしたタリバン政権が文化遺産、特に仏教関係の遺跡などを破壊し始めた頃から、アフガニスタンの貴重な文化遺産が、さまざまなルートで、多くは闇ルートで世界に流れ出しました。日本にも、かなり渡ってきたと思われます。

平山先生は、この時期に日本に渡ってきたアフガン文化財を「文化財難民」と命名されて、これを保

らの募金900万円強もこの活動に充てられることになりました。

日本におけるアフガン流出文化財の保護・管理のために、流出文化財保護日本委員会が設置され、平山先生が委員長を務められ、その事務局は現・財団の前身である（財）文化財保護振興財団に置かれることになりました。こうして、これまで計102点の貴重なアフガン流出文化財が保護され、必要に応じ修理・保全され、管理されてきました。

文化財を守る心

前記日本委員会の委員長は、平山先生ご逝去の後には、当財団の理事長でもある宮田亮平東京藝術大学長が継承されました。2015年5月、アフガニスタンの情報文化大臣から宮田委員長あてに書簡が届き、これまでの平山先生のご努力に感謝すると共に、2016年に日本で開催される特別展「黄金のアフガニスタン ― 守りぬかれたシルクロードの秘宝 ―」に、日本で保管してきたアフガン流出文化財の一部出品してほしい、その後、流出文化財は、特別展と一緒に世界を巡回し、いずれアフガニスタンに安全に戻るようにならうとの意向が表明されました。この要請に応じることで、流出文化財を母国のアフガニスタンに



バミヤン写真展とシンポジウムが開催されたユネスコ本部の会場で記者団の取材に応じる平山先生（2001年6月）



2009年5月、ユネスコ親善大使会議に出席された平山先生。中央は松浦晃一郎ユネスコ事務局長（当時）右が筆者。この年の12月2日、先生は逝去された

に安全に戻るようにしたいとの意向が表明されました。この要請に応じることで、流出文化財を母国のアフガニスタンに



公益社団法人
日本ユネスコ協会連盟
理事長
野口 昇
(のぐちのぼる)



2001年6月、パリのユネスコ本部でアフガニスタンの流出文化財の取り扱いについて協議が行われた。左側、手前から4人目が平山先生。ひとりおいて筆者。右側、手前から3人目がプシュナキ文化担当事務局長補

くして、この事業は推進できなかったと思います。なお、平山先生は、ご承知のとおり、文化財赤字の構想の下、アフガニスタンをはじめアジア各地の貴重な文化財の保護に献身されました。また、平山先生のイニシアティブにより、超党派の議員立法で「海外の文化遺産の保護に係る国際的な協力の推進に関する法律」が制定されました。また、この法の趣旨に基づき、官民あがての組織「文化遺産国際協力コンソーシアム」が2006年に設立されました。平山先生は、その初代会長を務められました。

平山先生は、常々、「文化財を守ることは、そこに暮らす人々を守り、その心を守ることだ」とおっしゃっておられました。アフガニスタンのカブール国立博物館には、以下のような有名な文言が掲げられています。

「A Nation can stay alive when its Culture stay alive」
2015年は、ユネスコ創設70周年でした。世界の文化遺産を人類共通の宝として守っていくことに協力していく。このことは、日本のソフトパワーを高め、世界平和のために日本が行なう目に見える貢献の一つではないかと考えます。

私たちは、平山先生の高い志を継いで、世界の貴重な文化遺産の保護にこれからも取り組んでいく必要があると思います。

筆者略歴

一九三九年、岐阜県生まれ。東大教育学部卒。六一年、文部省入省。九二年よりパリのユネスコ本部へ。奨学金部長、ユネスコ北京事務所長等を歴任。二〇〇一年帰国後、文京学院大教授・副学長を務める。現在、（公社）日本ユネスコ協会連盟理事長等、多数の要職にある。当財団理事も務める。

イラクから流出した文化財に救済の手を……

戦争の混乱に乗じて夥しい数の貴重な文化財が不法手段でイラクから持ち出されて久しい。メソポタミア文明の有力な語り部である文化財の返還を求めるイラクの声を……。



駐日イラク共和国大使
アラール・アルハーシミー

歴史の中のイラク

チグリス河とユーフラテス河の二つの大河に挟まれたイラクのメソポタミア地域は、シュメール、バビロン、アッシリア、カルデアなど諸民族の歴史の舞台となってきた。水や多様な環境、それに開かれた大地は、人類史における文化的な市民社会の規律と繁栄を築く最古の礎をなした。

人類の文明の発展とともに、さまざまな社会が調和し、また衝突した。そのような中、個人や社会に関して基本的な法律を整備する必要が生じた。メソポタミア地域は、そうした分野の中心的存在にほかなら



最も古いイラクの文化財の一つ。2本の長い角と短い尾を持つ雄羊のような動物をあしらった銅製の作品(404×200mm)。背中の部分には留め具のような穴があいている



イラク国立博物館で被害にあったのは、展示品や所蔵品だけでなく、貴重なデータ等の資料も消失したり、散逸した(2003年)

ない。シュメールやバビロンの諸王は、人類史において最古の行政や法令を整備し、それらは紀元前一七九〇年ごろにハンムラビ法典として結実した。この法典は、農業、灌漑、牧畜、所有、女性や子どもの権利、死、殺人、傷害などさまざまな分野を網羅している。法典は黒い岩に記されており、上部にはハンムラビ王の像があらわられてい

る。王は、太陽の神の声を聞き取ったという。この法典は、公正、権利、処罰などの諸概念の実現を試みる法律であり、これを基礎として、多くの社会や文明が繁栄した。こうした文明社会の歴史的な発展において、イラクもその建設者の一人として、人道的な法規範づくりに貢献してきた。しかし今、何世代にもわ

たつて培われてきたイラクの伝統、文化、遺産に対する攻撃が行われている。

現在の国際法は、国家間の協約はたとえ占領や武装紛争の最中においても各国家を尊重するものと定めている。私的な財産、天然資源、これらはいかなる形であっても勝手に取り扱うことはできないのである。イラク、メソポタミアの地において、私的所有物や天然資源に対する破壊行為は正当性を持たないという立場にあるジュネーブ条約ははたして十分に尊重されただろうか？

今も続く文化財の破壊と略奪

サダム・フセイン政権は数多くの国際法違反を行った。同政府幹部もそうした行為に荷担したので、イラクは文化財の流出を招いてしまった。

その後、イラクに駐留したアメリカ軍により民族の誇りでもある貴重な文化財は甚大な損害を受けた。それは、誰も阻止することの出来なかった広範な文化財の流出であった。遺跡は掘り返され、出土品は盗まれ、こうして多くのイラクの文



イラク北部、古代ニネヴェの遺跡と世界有数の石油生産で知られるモスル。その南西100キロほどにある古代都市・世界遺産のハトラの神殿は、同じ世界遺産のシリアのパルミラ、ヨルダンのペトラ、レバノンのパルベックの遺跡と通じるローマ時代のもの。モスルは長らくISの影響下にあった



首都バグダッドから北へおよそ400キロ。ニムラッドはアッシリアの二番目の首都であった。この遺跡は古代メソポタミア文明を象徴する有翼人面牝牛像など独特の彫刻で知られるが、ISなど過激派の破壊活動でその存続が危ぶまれている

化財が海外へ流出していった。アメリカに渡った文化財の数は二〇〇〇とも言われる。また、ヨルダンへは七〇〇、シリアへは二〇〇という数字もある。イラク国立博物館から運び出された文化財は、イシュタル神やシュメールの少女をあしらった貴重なものなど総計一万三八六四点におよぶという。そして、最近ではテロ集団ISがイラクの都市モスルに侵入した後、彼らによる破壊や盗掘が行われている。同地域の博物館にある貴重な文化財の約一〇〇〇点を始め、遺跡の盗掘によって得た文化財の密売など密行にさらされている。これは人類すべてを震撼させる犯罪にほかならない。盗掘や破壊された遺跡の被害額は数百万ドルにも及ぶとされる。これは物的な被害額であり、遺産としての文化的な価値や国家としての精神的な損害は計り知れない。

実に残念なことに、現在もなお、密売人や国際マフィア関係者などの手によりイラクの遺跡に対する破壊や盗難が行われている。こうした遺跡は記録や文書に残されない。最も被害が大きいものは博物館からの盗難である。ISとの戦いにより、盗品を追跡したり、保護したりすることは非常に困難となる。ついでに、次の点を私たちは、全ての各国政府、市民社会に望んでいる。

- 一、国連安全保障理事会においてイラクの遺跡の保護および国際犯罪を規定する決議をつくるためにイラク政府を支持していただきたい

日本への期待

日本は二〇世紀よりイラクでの遺跡発掘調査に取り組んできた。また、遺跡保護の分野においてイラクへの支援を惜しみなく行い、違法な盗掘や密売に対する取り組みを重ねてきた国家である。さらに、遺産の修復や維持について国際的な基準に達するようイラクの博物館を支援してきた。

こうした友好国である日本の政府および専門家が、イラクの正当な要求を支持し、イラクの歴史的な文化遺産の保全と破壊や略奪からの保護とに支援を行ってくれるよう願ってやまない。最後に、すべての文明に対する破壊行為に反対する前記の呼びかけを行う機会を与えてくださった公益財団法人 文化財保護・芸術研究助成財団にお礼を記して稿を閉じたい。

筆者略歴

一九五三年、バグダッド州ワースト生まれ。バグダッド大学卒業(建築技術専攻)。二〇〇四年、外務省入省。駐独大使、欧州局長等を経て二〇一三年より駐日イラク共和国特命全権大使。二〇一五年末にスペイン大使に転任。

※イラクから流失した文化財の一覧をイラク大使館のホームページ上に掲載しております。お心当たりの方は、当館にご連絡いただければ幸いです。
<http://www.iraqi-japan.com/embassy/?lang=jp>

十年目を迎える

「綴プロジェクト」がめざすもの

「本物」の持つ特徴をリアルに表現……。高精細複製品を生み出す技術は、貴重な文化財を未来に伝える新たな手法と言える。

活動の背景

―日本の文化財のおかれた環境

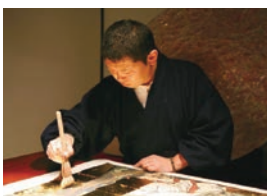
屏風や襖絵といった日本古来の貴重な文化財は和紙に岩絵の具で描かれており大変脆弱なため、文化財保護法などで定められた期間しか公開出来ませ

ん。つまり我々が目にする機会は大変限られていますし、多くの場合ガラス越しでの対面を余儀なくされます。また明治の廃仏毀釈の影響を受けて海外に渡った作品の中には、日本で見るとさえない作品もあります。

二〇〇七年特定非営利活動法人京都



京都建仁寺において 綴プロジェクト制作による「風神雷神図屏風」を鑑賞する人々



金箔の再現



色合わせ



画像データ入力
京都・妙心寺塔頭の
天球院にて



表装（引手のとりつけ）

文化協会ならびにキヤノン株式会社は「綴プロジェクト」(正式名称…文化財未来継承プロジェクト)を立ち上げ、キヤノンの最新のデジタル技術と京都の伝統工芸の技を融合させ、オリジナルの文化財に限りなく近い高精細複製品を制作し、オリジナル文化財をより良い環境で保存すると同時に、高精細複製品を通じて、より多くの人に日本の貴重な文化財の価値を身近に感じていただく取り組みを始めました。

制作工程について

オリジナル文化財は、日本だけでなく海外、そして保存する環境も美術館、博物館、或いはお寺、個人の収蔵家宅など様々な場所にあります。本プロジェクトでは文化財になるだけ負担をかけないように、所蔵されている場所でも複製に必要な撮影を行います。そのため持ち運びの便利なデジタル一眼レフカメラ及びストロボを使用しています。専用に開発した旋回台に載せて多分割撮影を行い、そのデータをパソコン上で合成すること

で高精細な画像データを生成しています。画像処理時における劣化を抑え、レンズ収差によるひずみ・ゆがみなどの補正を施すと同時に、照明の違いによって生じる色の見え方を補正するため、キヤノン独自開発の画像処理を行います。それぞれのオリジナル文化財がある照明環境に応じた調整を施し、忠実な色再現を実現します。

従来はオリジナルの文化財と出力したプリントの色を合わせるために、微調整を繰り返しながら何回も出力し直すことで対応していましたが、高精度なカラーマッチングシステムを導入したことで、時間を飛躍的に短縮することができ、撮影時に発生する文化財への負担を最小限に抑えられるようになりました。

出力したプリントの上に、金箔・金泥や雲母を京都西陣の伝統工芸士が再現します。文化財は、これまでの所蔵者が大切に継承されてきたもので、経年変化がその歴史を物語っています。本プロジェクトでは、経年変化を表現する「古色」と呼ばれる風合いを重視し、作品の持つ「年代」をあわせて再現しています。

最後に表具師が表装を施します。古くから京の地で、表装表具や様々な文化財の修復に携わる伝統工芸士の技により、日本独自の表装材料を用い襖や屏風に仕上げます。

寄贈と活用

以下にいくつか代表的な事例を紹介いたします。

米ミネアポリス美術館所蔵「四季耕作図」
伝 狩野山楽筆
寄贈先：旧嵯峨御所大本山大覚寺

昨年綴プロジェクトによって制作した高精細複製品を大覚寺に寄贈し、当時の様子そのまま、正寝殿「竹の間」に襖の形で飾られています。オリジナルは、二〇〇三―二〇〇五年日本において、文化財保護・芸術研究助成財団協力のもと、東京文化財研究所の在外日本古美術品保存修復協力事業（里帰り修復）において修復されました。この時の研究で京都大覚寺の所有であったことが判明したことから、この二五〇年ぶりの里帰りが実現しました。

重要文化財妙心寺塔頭天球院方丈障壁面
狩野山楽・山雪筆

本作品は長い間代々天球院に伝わったものですが、ご住職のよりよい状態で保存したいという強いご希望を受けて、二〇一二年に制作を開始しました。綴プロジェクトで高精細複製品を制作し、お寺にオリジナル文化財に代えて設置、オリジナルは京都国立博物館に寄託することで、よりよい環境での保



京都大覚寺正寝殿「竹の間」に飾られた綴プロジェクト作品「四季耕作図」



東京国立博物館「応挙館」にて行われた綴プロジェクト作品「松林図屏風」を用いたワークショップ

存に貢献することが出来た好事例です。また制作にあたっては佐々木丞平京都国立博物館館長の熱心なご指導をいただきました。

二〇一六年の今年の春には四年の歳月をかけて制作してきた全五六面が完成する予定です。天球院はお寺自体が重要文化財であるため、非公開寺院となつていますが、行楽シーズンの春と秋には高精細複製品による特別公開を行います。

東京国立博物館所蔵 国宝「松林図屏風」
長谷川等伯筆

綴プロジェクトでは、大きさも形もオリジナル文化財と寸分違わず制作し

ます。オリジナルは年初の展示でお馴染みではありますが、寄贈した高精細複製品は博物館構内の日本家屋「応挙館」で開催する親子対象のワークショップで活用しています。窓から差し込む太陽を受けて昼間はどのように見えたのか、雨戸を閉めた暗がりの中、蠟燭の明かりに模した電球で照らし、夜はどのように見えたのか、学芸員の作品解説を聞きながら味わいます。また道具としての屏風を、揚げたり、閉じたり、かつてどのように使われていたかを体感できる企画で、毎回多くの希望者が参加しています。

文化財保護・芸術研究 助成財団とのご縁、 これからに向けて

二〇〇七年プロジェクトをスタートした際には海外の美術館・博物館と関

係を構築するのに課題を抱えておりました。大切な文化財の複製をつくるというところで、実績の乏しい綴プロジェクトをご理解いただくのは大変難しいことでした。

※ ※ ※

二〇二〇年の東京オリンピック・パリンピックに向けて改めて日本の文化・芸術が見直されているようです。対外的に発信していくには、我々日本人ひとりひとりが日本の文化・芸術の価値を認識することが重要なのではないのでしょうか。そのためにもなるだけ多くの方に、出来れば感性が豊かな子供のうちから、触れる機会を増やすことが求められます。綴プロジェクトを通じて制作した高精細複製品を、よりたくさんの方に身近にご覧いただくことで、素晴らしい日本の文化・芸術への理解を更に深めていただきたいと切に願っております。綴プロジェクトとしても、皆さまのサポートをいただきながらこれからも活動を継続していききたいと考えております。



キヤノン株式会社
CSR推進部 部長
木村 純子
(きむら・じゅんこ)



第11回

日中韓文化交流フォーラム報告

過去さまざまなテーマについて論じ合ってきたフォーラム。今回は少し視点を
変えてテーマは「ファッション」について、さて、いかなる顛末に……。

温州の地で……

第11回日中韓文化交流フォーラムは、昨年の十一月十七日から二〇日まで、中国の南部に位置する浙江省温州市で開催されました。温州と聞くと、温州ミカンを連想する方も多いと思います。たしかに温州市は柑橘類の栽培も盛んに行われていますが、温州ミカンは日本で独自につくられたものです。

温州は、居住人口は九二〇万人ほど。改革開放以来、軽工業を中心として、瓯江下流域で発展した町です。中国の東南沿海部における重要な港湾都市でもあります。また、ここ温州は気候が温暖のうえ、山や海に囲まれた美しい景観にも恵まれた地でもあります。歴史をふりかえれば南宋（九六〇～一二七九）の時代から官吏登用試験で知られる科挙を受験するための学問も盛んで、永嘉学派とよばれる儒教の学派もこの地から生まれました。そうした流れは今日も生きていて、温州は文化・学術都市の顔も有しています。ちなみに温州市は宮城県石巻市と姉妹都市の関係を保っています。

テーマはファッション

日本と温州とは直行便がありません

は融通性のある染色技術であることを説かれ、そのアート性等に熱弁をふるわれました。

韓国文化観光研究院文化産業研究室室長の李允慶先生は「韓国のファッション・クリエイティブ産業の現状」と題して、経済面からみたファッション産業の在り方について語られました。そして、三カ国によるアジア風ブランドの創造、ファッション博物館の創設等を提案されました。

トリは、清華大学美術学院副教授



人民大会堂から会場をホテルに移し、3カ国によるフォーラム開始



「中日韓文化交流の夕べ」のオープニング——温州大劇院コンサートホールにて。ここで温州外国語学校学生合唱団によって「わたしは未来」が3カ国語で披露された

ん。十一月十七日、私たちは羽田空港から上海虹橋空港を経て現地入り。上海は雨。温州は曇り空でした。

日本代表団は国際交流基金の小倉和夫顧問を委員長に以下七名。財団からは私と村木茂局長が参加いたしました。理事長の宮田亮平先生は、公務が重なり都合がつかず、このたびは欠席せざるをえませんでした。

さて、中韓両国はと申しますと、中国は陳昊蘇委員長以下八名。韓国側は鄭求宗委員長以下七名。これが三カ国代表団の陣容です。

応援団として、上海総領事館から前川智映領事が、国際交流基金北京日本文化センターから吉川竹二所長が駆けつけてくださいました。

夕刻、宿舎でもある香格里拉大酒店で温州市政府主催の晩餐会。代表団は互いに顔見知りが多く、会は最初から和やかな雰囲気のもとに進みましました。直径七ハメートルはあろうかという大テーブルに四十数名の関係者が一同に会しての晩餐会は迫力満点でした。

十一月十八日。ホテルを出て、温州市人民大会堂へ。辻々の街灯に取り付けられているフォーラムを告知する幟、人民大会堂の正面入り口の巨大な横断幕、いずれも中国側の意

の周剣石先生。周先生の御専門は漆芸。東京藝術大学で研究生活を送られたこともあり、日本語は堪能です。先生の演題は「中国のファッション産業とグリーン・エコ——伝承と創意工夫」というもので、長い歴史をもつ漆の技法を現代に生かすデザインの新しや優れた天然素材を利用した価値の創生についてご自身の作品も紹介しながら熱く語られました。

三カ国の委員たちによる討論

午後は会場をホテルに移し、委員を中心としたフォーラムとなりました。今回は時折り政治的な発言が飛び出しましたが、今やファッション産業が経済の一翼をなう存在となっているという認識には異論は出ませんでした。



温州市人民大会堂の正面入口に掲げられた巨大な横断幕

気込みが伝わってきます。

午前九時、フォーラムの開会式。三カ国の委員長の挨拶、浙江省代表、温州市の代表の挨拶が続きました。

そして、三カ国の専門家の先生方による講演へ。今回、ホスト国である中国側から提案されたテーマは「伝統と革新——中日韓ファッション文化産業発展と協力」というものでした。

トップバッターは、東京藝術大学美術学部工芸科准教授の上原利丸先生。先生は染色の専門家としてのお

要であるが、夢も語りたいと思い、やがて人類が本格的に宇宙に飛び出す時代に備えて新しい宇宙服の素材や染料の三カ国による共同開発などを話させていただきました。

今回は極めて身近なテーマだけに委員の方たちのお話も熱がこもっており、近いうちに、三カ国の知恵が世界的なブランドを生み出せたら素晴らしいことでしょう。

午後二時半から始まったフォーラムは四時半に終了。代表団は温州市博物館を見学。ここでは「中日書画展」も開かれており、これも見学。そしてホテルへ――。

「わたしは未来」と共に

夕食後、代表団は温州大劇院のコンサートホールへ移動。博物館も大劇院も巨大な建造物なので、さすが中国と納得した次第です。

午後七時半より始まった「中日韓文化交流の夕べ」のオープニングは、温州外国語学校学生合唱団の皆さんによって歌われた三カ国語による「わたしは未来」。

二〇一三年に佐渡で初めて披露されたこの歌が韓国で、中国で歌われたことは、このフォーラムの大きな成果であったと思います。正直、感激いたしました。

舞台では三カ国のお国が遺憾なく発揮された古典芸能が演じられ、充実した会となりました。代表団一行はピアノが奏でる「わたしは未来」のメロディーに送り出されてホールを後にしました。



袁敏道・中国人民对外友好協会アジア・アフリカ部主任の司会のもと、3カ国の専門家による講演が行われた。左から上原利丸、周剣石、李允慶の各氏



財団専務理事
小宮 浩（こみや ひろし）



古い家屋が、まるで1軒の家のように連なる楠溪江の地にある「民居」

翌朝は午前八時半にホテルを出発。温州が誇る景観の地、楠溪江と雁蕩山を見学。どちらも日本では見られない風景で、温州が持つ多彩な顔の一面を見た思いでした。

※ ※ ※

政治的には緊張もやや緩和した感もする日中、日韓の関係ですが、今回も「日中韓文化交流フォーラム」は尊敬の念を持って、互いの友情を確信する場ともなり、恙なく終了いたしました。

温州市の皆さま、このたびは大変お世話になりました。また中韓の関係各位の御努力に敬意を表すると共に感謝申し上げます。ありがとうございました。

（写真：村木茂）



和紙

③

楮紙の化学的安定性

楮紙の保存性評価

すばらしい絵画作品を支える基材としての楮紙の寿命は用いる原料や処理法によってどのようにかわるのであるか。

楮はアルカリ水溶液で煮ることによって繊維化される。アルカリとしては現在はソーダ灰(炭酸ナトリウム)、苛性ソーダ(水酸化ナトリウム)が主で木灰、石灰は使われることが少ない。また、煮熱前後に行うことの多い漂白処理では、川晒しや雪晒しに代わって、さらし粉が導入されている。

同一の高知産楮から作成した楮紙の保存性に及ぼす、煮熱剤の違い、さらし粉による漂白の有無による影響を検討した⁽¹⁾⁽²⁾。日本画で絵具のにじみ止めとして用いるドウサ(ニカワとミョウバンの混合液)を紙に引いたときのpHの変化を(図1)に示す。横軸は紙中のミョウバン塗布量、縦軸はpHである。pHとは、7が中性で、それより下に行けば行くほど酸性が強く、上に行くとアルカリ性である。ドウサを塗っていない部分(ミョウバン量0g/m²)を見ると、四種の煮熱剤で煮た楮紙は、漂白したもの以外はpH7と全て中性紙で、保存性には問題がなさそうに見える。しかし、ドウサ引きすると、ミョウバン塗布量に対して酸性になり

くい(pHが低下しにくい)グループと、急激に酸性度が高くなるグループに分かれた。酸性になりにくい木灰煮とソーダ灰煮の楮紙は、中に適量のアルカリ分が残っていて、外からの酸に対して緩衝作用があるためである。

これらの湿熱劣化促進試験(80℃、65%rh、16週間)を行ったところ、ドウサ引きで酸性度の高くなった楮紙は当然劣化が早かった。また苛性ソーダで煮熱した楮紙に関して、漂白したものの方が、未漂白のものよりも劣化しやすかった。さらに、紙の主成分であるセルロースの重合度を測定したところ(図2)、木灰やソーダ灰で煮熱した楮紙の方が、苛性ソーダで煮熱した楮紙よりも重合度が高く、つまり煮熱による繊維の損傷が少なく、また、促進劣化後の重合度も高かった。日本では楮の約七割を輸入しているが、代表的な輸入品であるタイ楮は樹脂分が多く、苛性ソーダで煮熱せざるを得ない。一方、国内産の楮はソーダ灰などで煮熱して使用することが可能なので、保存性のよい楮紙を製造するには国内産の楮を使用するのが良いことになる。

日本画基材としての紙の保存性

昭和の初めに越前の岩野平三郎(初代、一八七八―一九六〇)は、竹内栖

東京藝術大学 大学院教授
稲葉 政満 (いなば まさみつ)

鳳や横山大観など著名な多くの日本画家の好みに応じた紙を開発し、そのなかで古代の紙をヒントにした麻紙の開発に成功する。そして、日本画の基材として大変優れた「越前麻紙」を上市し、この紙はほぼ独占的な地位を確立する⁽³⁾。ちなみに当代にあたる三代目は平山郁夫が薬師寺の玄装三蔵院に納めた大唐西域壁画に用いた用紙を渡している。

数年前に楮と雁皮からなる日本画用紙「大濱紙」が売り出された。この紙は書き味などが越前麻紙と違うので、作家によって使いにくいという話もあるが、保存性も加味して開発されたものである。そこで、大濱紙と越前麻紙の保存性に関して検討を行った⁽⁴⁾。

この両者の紙はpH7.2とpH7.7と中性で、保存性上問題なさそうな結果

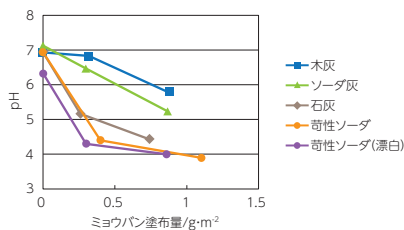


図1 楮紙のドウサ塗布によるpH変化

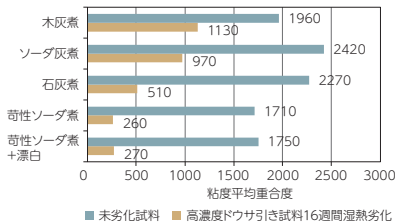


図2 楮紙の粘度平均重合度

- (1) Tanya T. UYEDA, Kyoko SAITO, Masamitsu INABA and Akinori OKAWA, "The Effect of Cooking Agents on Japanese Paper," *Restaurator*, 20, 119-125 (1999)
- (2) Masamitsu INABA, Gang CHEN, Tanya T. UYEDA, Kyoko Saito KATSUMATA and Akinori OKAWA, "The Effect of Cooking Agents on the Permanence of Washi (Japanese Paper) Part II," *Restaurator*, 23, 113-144 (2002)
- (3) 高橋正隆: 絵絹から紙へ ―岩野平三郎伝― 文華堂書店 (1976)
- (4) 伊藤奈々、稲葉政満、近藤 文、「日本画用紙の保存性に及ぼすにじみ止め処理の影響」、第7回 東京藝術大学保存科学研究室発表会 (2007)

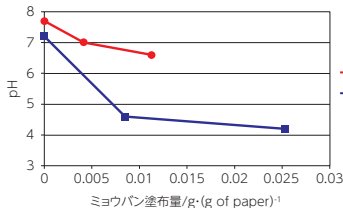
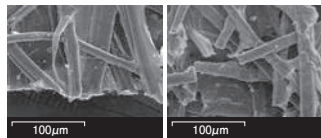


図3 越前麻紙と大濱紙のドウサ塗布によるpH変化



強制劣化前後の越前麻紙の走査電子顕微鏡像
繊維にひび割れや折れが生じている。

であったが、ドウサ引きにより、越前麻紙は大幅に酸性度が高くなり、大濱紙の方はあまり酸性にならなかった(図3)。大濱紙は適量のアルカリ分を含有しているため酸性になりにくい。また、吸い込みが良い越前麻紙に比べ、用いた大濱紙は雁皮を3割程度含むためにドウサの吸い込みが少なく、実際使用する際にも酸性になりにくいと考えられる。さらに、大濱紙のほうが越前麻紙よりもセルロースの重合度が高く、保存性が高いという結果を得ている。

事務局報告

平成二十七年助成事業の採択状況について
平成二十七年助成事業の申請、採択状況について次のとおり報告します。

文化財保存修復助成事業

三十四都府県の教育委員会から推薦があり、審査の上、次のとおり助成を決定しました。

	申請数	採択数	決定金額
美術工芸	十五	七	二百十万円
建造物	四十五	十五	六百三十万円
有形民俗	七	五	百六十万円
記念物他	一	〇	〇万円
その他	四	〇	〇万円
計	七十二	二十七	一千万円



修復された「八幡神社拝殿屋根」
(愛媛県久万高原町)

芸術研究等助成事業

研究者からの申請に基づき、審査の上、次のとおり助成を決定しました。

申請数	採択数	決定金額
二十七	十三	四百二十万円

国際協力事業

研究者からの申請に基づき、審査の上、次のとおり助成を決定しました。

申請数	採択数	決定金額
九	六	四百九十万円

重点助成事業

(1) 東日本大震災被災文化財復旧支援事業
五県の教育委員会から推薦があり、審査の上、次のとおり助成を決定しました。

ご寄付を頂きました皆様



(2) 尼門跡寺院文化財保存修復助成事業
本事業は、平成二十二年から企業等のご支援を受けて毎年一件の助成を実施しているものです。平成二十二年からは東芝プラントシステム株式会社様のご支援・ご協力を得て実施しており、今年度は次のとおり助成を決定しました。
○真如寺蔵「木造高德院宮(理忠尼)像」
助成決定額二百五十七万五千八百円

●平成27年9月16日から12月15日まで
敬称略 順不同
○文化財保存修復・芸術研究等助成事業
ヤフーネット募金(104名様)

匿名の方からご寄付頂きました。
○東日本大震災被災文化財救援・復旧支援事業
(公財) 小野奨学会
(公財) 雲山顕彰会
(二社) 日本建設業連合会
新制作協会 彫刻部 社会貢献活動協議会
新百合混声合唱団

アート好きによるアート好きのための
働く大人の心意気ライブ・祝5周年
図録放出会

お願い

○東日本大震災被災文化財の救援と復旧のための募金をお願い
東日本大震災によって被災した文化財の復旧に向けて、募金活動を実施しています。いただきました浄財は、被災した文化財の復旧のために活用させていただきます。

皆様の温かいご支援、ご協力により少しずつではありますが、文化財の復旧は進んでいます。本事業は平成二十八年まで継続して行なってまいりますので、引き続きご支援、ご協力をお願いいたします。
募金のお振込み手続きは左記の銀行又は郵便振替によりお願い申し上げます。

銀行振込

三井住友銀行 上野支店
普通 6615496

名義(公財)文化財保護・芸術研究助成財団
※銀行振込の場合、振込者の確認が難しいため、領収書、お礼状の発行等の必要上、財団事務局に事前にご連絡をいただけると幸いです。
(電話) 03・5685・2311

郵便振替

振替番号 00160・5・12319
名義(公財)文化財保護・芸術研究助成財団
※通信欄に「地震」とお書きください、

◎賛助会員ご入会及びご寄付(前記のご寄付を除く)のお願い

〔賛助会員〕

当財団では、財団の活動趣旨にご理解、ご賛同をいただき、恒常的にご支援いただける法人、個人の賛助会員を募集しています。

法人正会員 年額(1口) 50万円
個人正会員 年額(1口) 1万円
維持会員 年額(1口) 10万円
〔ご寄付〕

賛助会員の他に、ご寄付も随時受け付けています。ご寄付には次の様々な方法があります。

(1) インターネットによるご寄付

次の手順によりインターネットから、ポイント又はクレジットカードによるご寄付(募金)を受け付けています。

←「YAHOO! JAPAN ネット募金」
←「文化・スポーツ」
←「文化財保存修復支援募金」
←「Tポイント」又は「クレジットカード」を選択
○募 金
(2) 銀行振込又は郵便振替
銀行又は郵便局から、振込によるご寄付を受け付けています。

(銀行振込)

○三井住友銀行 上野支店
普通 6615500
○みずほ銀行 上野支店
普通 4478576
○三菱東京UFJ銀行 上野中央支店
普通 0796384
(郵便局から振込み)
○郵便振替
00160・5・12319

※口座名義は、銀行、郵便局からいずれも(公財)文化財保護・芸術研究助成財団
(3) 特定寄付信託
当財団は、みずほ信託銀行と特定寄付信託に関する契約を締結しています。寄付信託に関する詳細につきましては左記にお問い合わせください。

○みずほ信託銀行個人営業推進部
電話・03・3274・9203

(4)クレジットカード 「社会貢献」をテーマとした寄付金機能付きクレジットカードによる寄付も受け付けています。 当財団は、(株)ジャックスと連携し、同社のカードを利用してショッピングした場合、利用額の一定割合を、同社のご負担によりご寄付をいただくものです。 カード作成のお申込み等の詳細は、当財団のホームページをご覧ください。事務局までお問い合わせください。 (5)遺贈 遺言によるご寄付も受け付けています。 詳細は当財団事務局にお問い合わせください。 (6)商品券・図書券等による寄付 ご家庭のタンスや事務室の机等の中で眠っている、未使用の商品券、図書券、切手、収入印紙、ビール券、お米券、旅行券、QUOカード、テレホンカード、書き損じ葉書等もご寄付として受け入れております。 お送りいただく場合は、当財団事務局宛てに封書にてご郵送下さい。 ***** ◎税法上の優遇措置 当財団は、「公益財団法人」としての認定を受けておりますので、寄付金には税法上の優遇措置が適用され、所得税、法人税等の控除が受けられます。詳しくは当財団ホームページでご確認いただくか事務局までお問い合わせください。 お知らせのご案内 (1)平成二十八年年度助成金の申請に関するお知らせ 平成二十八年年度助成事業にかかる助成金申請について、左記のとおり受け付けを行っています。詳細は、当財団ホームページ(助成金のご案内欄)でご確認ください。 ①例年実施の文化財保護、芸術研究に係る助成事業	☆台東区立朝倉彫塑館 (〇三・三八二一・四五四九) 日本近代彫塑界の最高峰であり、文化勲章受章者である朝倉文夫が住宅兼アトリエとして使用していた建物で、「墓守」「大隈重信候像」「仔猫の群」「時の流れ」など、朝倉文夫の彫塑作品を展示しています。 詳細は直接施設にお問合せください。 ☆台東区立書道博物館 (〇三・三八七二・二六四五) 洋画家であり書家でもあった中村不折により昭和11年に開館された博物館で、不折が収集した中国及び日本の書道に関する古美術品、考古出土品などを展示しています。 詳細は直接施設にお問合せください。 (演奏会) ☆東京藝術大学音楽堂 (〇三・五五二五・二三〇〇) ①藝大定期室内楽第42回 第1日(千五百円) 二月六日(土)十四時 ②藝大定期室内楽第42回 第2日(千五百円) 二月七日(日)十四時 ③東京藝大チェンバローケストラ第26回定期演奏会(千五百円) 二月十一日(木)十五時 ④東京藝術大学・海上自衛隊東京音楽隊 キャンパスコンサート(無料、十三時から整理券配布) 二月十四日(日)十四時 ⑤モーニングコンサート13(千円) 二月十八日(木)十一時 ⑥上野の森オルガンシリーズ マックス・レーガー没後100年を記念して(二千円) 二月二十一日(日)十五時 ⑦寺谷千枝子退任記念演奏会(無料) 往復ハガキによる事前申込制 三月十九日(土)十五時 ⑧藝大21第10回奏楽堂企画学内公募演奏会(無料) 三月三十一日(木)十九時 ☆東京文化会館
--	--

②東日本大震災被災文化財復旧支援事業(申請期間) 平成二十八年一月十日～二月末日(必着) (2)文化財保存修復支援カレンダープレゼントのお知らせ 当財団広報誌(秋号N.79)でプレゼントのお知らせをしました2016年版の文化財保存修復支援カレンダーについて、十二月十一日に応募者に発送しました。 (3)展覧会・演奏会等のご案内 上野の山の文化施設他で開催される展覧会や演奏会等様々な催し物の一部をご紹介しますので、ご利用のご参考にしてください。なお、ここに掲げた以外の催し物等詳細はそれぞれの主催者等にご確認ください。(展覧会等) ☆アフガニスタン流出文化財の展覧会 流出文化財保護日本委員会が保護・保管しているアフガニスタンの流出文化財につきましては、アフガニスタン政府からの要請に基づき返還することになり、平成二十七年八月に記者発表を行い、広報誌秋号N.79号で概要を報告しました。 このたび、返還に先立ち左記の展覧会で展示しますのでご案内します。 ①「黄金のアフガニスタン」守りぬかれたシルクロードの秘宝Ⅰ(九州展) 会期：一月一日(金)～二月十四日(日) 会場：九州国立博物館 概要：アフガニスタン北部のティリヤ・テペから出土した煌びやかな黄金製品の展覧会が、2006年にフランス・ギメ国立東洋美術館で開催され、その後世界10カ国を巡回し日本にやってきました。本展覧会に流出文化財15点も展示されています。 ②「黄金のアフガニスタン」守りぬかれたシルクロードの秘宝Ⅰ(東京展) 会期：四月十二日(火)～六月十九日(日)	(〇三・三八二八・二二一一) ①東京バレエ団 初演 ブルメイステル版『白鳥の湖』全4幕 二月五日(金)十八時三十分 二月六日(土)十四時 二月七日(日)十四時 問合せ：NBSチケットセンター 〇三・三七九一・八八八八 ②東京文化会館バックステージツアー 二月九日(火)十四時三十分～及び十九時三十分(一時間半程度)参加費五百円 問合せ：東京文化会館事業企画課 〇三・三八二八・二二一一 ③東京二期会オペラ劇場「イル・トロヴァトーレ」 二月十七日(水)十八時三十分 二月十八日(木)十四時 二月二十日(土)十四時 二月二十一日(日)十四時 問合せ：二期会チケットセンター 〇三・三七九六・二八三一 ④都民劇場音楽サークル 第634回定期公演 ジャニーヌ・ヤンセンヴァイオリニサイタル 二月二十二日(月)十九時 問合せ：都民劇場 〇三・三五七二・四三二一 ⑤陸上自衛隊第一音楽隊第40回定期演奏会 二月二十八日(日)十四時(無料) 事前応募制 問合せ：陸上自衛隊広報班 〇三・三九三三・一一六一 ☆上野学園 石橋メモリアルホール (〇三・三八四三・三〇四三) ①プロジェクトQ・第13章 ～若いクアルテットモーツアルトに挑戦する モーツアルト後期弦楽四重奏曲演奏会 二月七日(日)十三時 ②ランチタイムコンサートvol.63 学生による演奏会企画シリーズ6 三月九日(水)十二時十分 ③東京・春・音楽祭 レスピーギ《ローマ三
---	--

会場：東京国立博物館 ※九州国立博物館で開催された後、東京国立博物館にやってきました。 ③東京藝術大学アフガニスタン特別企画展『素心バミヤン大仏天井壁画』～流出文化財とともに～ 会期：四月十二日(火)～六月十九日(日) 会場：東京藝術大学大学美術館陳列館 概要：東京国立博物館で開催される「黄金のアフガニスタン」守りぬかれたシルクロードの秘宝Ⅰ」と連動して開催します。東京国立博物館で展示される流出文化財15点以外の87点を展示しますので、返還する流出文化財全体を日本で鑑賞できる最後の機会となります。 また、同時にバミヤン東大仏の天蓋を飾っていた「太陽神と飛天」の天井画を、東京藝術大学が有する最新の技術を活用し、原寸大に復元して公開します。 ☆東京国立博物館 (〇三・五七七七・八六〇〇ハローダイヤル) ①特別展「始皇帝と大兵馬俑」 平成二十七年十月二十七日(火)～平成二十八年二月二十一日(日) ②特別展「生誕150年 黒田清輝」日本近代絵画の巨匠 三月二十三日(水)～五月十五日(日) ☆国立科学博物館 (〇三・五七七七・八六〇〇ハローダイヤル) ①特別展「ワイン展」 平成二十七年十月三十一日(土)～平成二十八年二月二十一日(日) ☆国立西洋美術館 (〇三・五七七七・八六〇〇ハローダイヤル)	会場：東京国立博物館 ※九州国立博物館で開催された後、東京国立博物館にやってきました。 ③東京藝術大学アフガニスタン特別企画展『素心バミヤン大仏天井壁画』～流出文化財とともに～ 会期：四月十二日(火)～六月十九日(日) 会場：東京藝術大学大学美術館陳列館 概要：東京国立博物館で開催される「黄金のアフガニスタン」守りぬかれたシルクロードの秘宝Ⅰ」と連動して開催します。東京国立博物館で展示される流出文化財15点以外の87点を展示しますので、返還する流出文化財全体を日本で鑑賞できる最後の機会となります。 また、同時にバミヤン東大仏の天蓋を飾っていた「太陽神と飛天」の天井画を、東京藝術大学が有する最新の技術を活用し、原寸大に復元して公開します。 ☆東京国立博物館 (〇三・五七七七・八六〇〇ハローダイヤル) ①特別展「始皇帝と大兵馬俑」 平成二十七年十月二十七日(火)～平成二十八年二月二十一日(日) ☆国立西洋美術館 (〇三・五七七七・八六〇〇ハローダイヤル)
---	---

①日伊国交樹立150周年記念「カラバツジョ展」 三月一日(火)～六月十二日(日) ☆国立国会図書館 国際子ども図書館 (〇三・三八二七・二〇五三) ①現実へのまなざし、夢へのつばさ：現代翻訳児童文学の半世紀 平成二十八年三月～開催予定 ☆黒田記念館 (〇三・五七七七・八六〇〇ハローダイヤル) ①黒田記念室(常時、ご覧いただけます) ☆東京都美術館 (〇三・三八二三・六九二一) ①特別展「ボッティチェリ展」 一月十六日(土)～四月三日(日) ②都美セレクトション新鋭美術家2016 二月九日(金)～三月十五日(火) ③特別展「生誕300年記念 若冲展」 四月二十二日(金)～五月二十四日(火) ☆都立旧岩崎邸庭園 (〇三・三八二三・八三四〇) 岩崎彌太郎の長男で三菱第3代社長の久彌の本邸として建てられ、園内の歴史的建造物は国の重要文化財に指定されています。 詳細は直接施設にお問合せください。 ☆台東区立下町風俗資料館 (〇三・三八二三・七四五一) 江戸の風情をとどめる大正時代の東京・下町の街並みを再現するとともに、台東区を中心とした下町地域にゆかりの資料、生活道具や玩具など、さまざまな資料を展示しています。 詳細は直接施設にお問合せください。 ☆台東区立一葉記念館 (〇三・三八七三・〇〇〇四) 処女作「闇桜」原稿や、「たけくらべ」草稿等重要な資料を展示しています。 詳細は直接施設にお	にむかって今こそ私たちは叡智を寄せ合う時ではなからうか。 編集後記 皆様御機嫌よく新年を祝われたことと拝察いたします。 昨年は「はやぶさ2号」や「あかつき」など日本の宇宙探査機の活躍ぶりが大いに話題となりました。また、大村智先生のノーベル生理学・医学賞、梶田隆章先生の同物理学賞の受賞は気持ち爽やかなものを覚えました。 前号でふれましたように本年、アフガニスタンからの流出文化財が正式に返還されます。これを機にイラク大使館より同国からの流出文化財の返還事業にも協力をするとの申し入れがありました。詳細は本文の通りです。 東日本大震災の被災文化財復旧・支援事業も最終年に入ります。 本年も私たちスタッフ一同、財団の名に恥じないよう努力してまいります。しかし、財団をとりまく環境は楽観を許されるものはありません。そうした中、文化・芸術を通して少しでも社会に貢献できればと願っております。本年もよろしくお願い申し上げます。 広報誌「絲綢之路(シルクロード)」 二〇一六年 新春号 通巻第八十号 ● ★平成二十八年一月二十五日発行 ★編集発行／公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団 事務局◎ 〒110-0007 東京都台東区上野公園十二-五十 電話(〇三)五六八五-二二二一 FAX(〇三)五六八五-二二二五 URL: http://www.bunkazai.or.jp/ E-mail: jimukyoku@bunkazai.or.jp ★印刷 株式会社 東都工芸印刷
--	--